

1. 実践研究テーマ

聞く力を育てるために、子ども同士で伝え合う機会を確保する授業実践

2. 取組の内容(協力校等との連携等を含む)

1. 本年度研究テーマの見直し
 - ・昨年度の実践(表現力の育成)を振り返る中で、「相手の話をよく聞くこと」が欠かせないという課題が明らかになった。そのため、本年度は聞く力の育成に焦点を当て、取組を再構築した。
2. 授業実践の検討
 - ・聞く力の育成の方策を協議し、全教科で「ペアトーク」を共通実践として導入した。併せて協力校と情報交換を行い小中の学びの連続性を確認した。
3. 小中合同の職員研修
 - ・小中合同で「聴き方ワークショップ」を実施し、傾聴の基本と効果的な聞き方を学び、教職員自身の指導モデルを共有した。
4. 合同研究授業・研究協議
 - ・協力校と研究授業および協議を行い、人権学習の授業を参観した。児童生徒の聞く姿勢や話し合い活動をもとに成果と課題を共有し、ホワイトボード活用の有効性を検証した。
 - ・生徒の聞く姿勢の見取り方や評価の観点について教員間で具体的に検討し、共通理解を図った。



3. 取組の成果

○ 教職員の変容

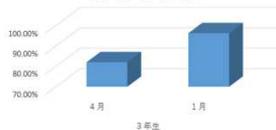
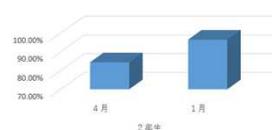
- ・研究テーマの共有により、教職員間で聞く力の育成に向けた指導観が統一され、授業改善の方向性が明確になった。
- ・全教科での「ペアトーク」導入を通して、話し合い活動の設計や発問の工夫が進み、教員の授業構成力が向上した。
- ・研究授業および協議を通して、生徒の聞く姿勢をどのように見取り、どの観点で評価するかについて教員間で視点を共有し、指導の精度を高めることができた。
- ・ICTを積極的に使って授業展開が行われるようになり、生徒の表現力を高めるツールとして活用が多く見られた。
- ・生徒が理解しやすい方策について、多様な視点で考えることができた。
- ・継続した取組をすることへの意義を感じた。

○ 児童生徒の変容

- ・ペアトークの実践により、相手の話を最後まで聞くという姿勢が定着し、聞く態度が安定した。
- ・生徒同士が学び合い、考えが深まり、表現力が高まった。
- ・ホワイトボードを活用した話し合い活動を通して、意見の違いに気付き、比較・整理しながらホワイトボードに意見を可視化することで、相手の発言内容を正確に捉えようとする姿勢が強まり、聞く態度が向上した。
- ・4月に行った「全国学テ」「ステップアップテスト」のアンケートと、今年1月に行ったアンケートを比較すると、どの学年も生徒が聞くことへの意識や話し合いへの参加意欲に変化(肯定的意見の増加)が見られ、指導による効果を客観的に確認することができた。

友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。

学校の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。



4. 2年間の実践を振り返って

- ・小中で共通する課題を明確にし、解決に向けた指導体制を共有できたことは、指導の質を高める重要な機会となった。今後も継続して取り組み、子どもたちの表現力の育成に努めたい。
- ・技法の習得に加え、教師自身が対話を大切にする姿勢を一貫して示すことが、子どもたちの表現力を豊かにする上で重要であることを再認識した。